

提案主題 目標協働達成モデル校における取組と教頭の役割
 サブテーマ ～学校・家庭・地域、3者の連携を通して～
 協議の柱 学校・家庭・地域、3者の協働(地域コミュニティ)によって子どもの育ちや学力を、より育み向上させるための教頭としての役割は何か。

提言者 中津市立今津小学校 松本 能 克

1 質 疑

- (1) Q モデル校となって新しく立ち上げた組織はあるか。
 A 既存の組織を利用した。一年次は、全員が一歩ずつ取り組めるようにと考えた。
- (2) Q 運営組織の主要主任等は、担任をしているか。
 A 教務は、担任外。生徒指導主任と研究主任は、特別支援学級担任。目標協働達成担当は、担任をしていた。
- (3) Q 分掌部会とのからみはどうなっているか。
 A 小規模校なので分掌部会は設けず、運営委員会を中心に進めている。

2 協 議

- (1) 3者の協働は、コミュニティスクールに指定されている学校はよくできている。中学校単位で課題や目標を共有していくとよい。簡単な目標、シンプルな内容で、全員で取り組み評価をしながら進めていくことが大事。中学校の成績を小学校で確認することで小学校の学力を見直せたという学校もあった。
- (2) コミュニティスクールが多くの学校で動き始めている。コミュニティスクールを進める前に、地域に既存の似たようなメンバーの会合を地域や行政と連携して整理する必要がある。また、人選が大事になってくる。
- (3) 学校規模や地域によって状況が違う。課題をどういうふうに共有するかが難しい。「ナインティーンセブン」というルールを作り、地域・保護者と取り組んでいる学校もあった。教頭は、学校からの情報提供の役割と地域からの情報を教職員に伝える役をしていくべきである。

3 指導助言

- (1) 目的と手段を分けて考える。ゴールイメージがとても大事。ゴールをイメージしながら目的を持つ。どんな目的でこれをするのか。目標協働達成校は、地域・保護者が学校に要望するお客さんではなく、自分は何をすればよいか考える主体者になってもらうもの。
- (2) 学校内の組織を活性化するためのキーワードは、「まかせる」。例えば、「宿題しない子が多い。どうしよう。教務にまかせた。」「大学の先生に講演を呼びたい。生徒指導主任にまかせた」まかせることが大事。
- (3) 教頭の役割について。組織では、まかせても動かない教員がいる。そんな中で教頭は何をするか。能力の問題か、やる気の問題か、手段がわからないのか現場の様子をよく見て、話をすることも大事。また、「だから?」「あなたは?」とつきつけることも必要である。